

(様式 5)

「秋田大学研究者海外派遣事業」帰国報告書

平成 27 年 1 月 10 日

所属・職名：附属病院 リハビリテーション科 助教
氏名：齊藤 英知

派遣期間：平成 26 年 7 月 1 日～平成 26 年 12 月 26 日

派遣研究機関名：英文 Sports Clinic Germany
：和文 ドイツスポーツクリニック

研究課題：早期荷重可能な膝周辺骨切り術の開発

○研究概要（2000字程度）

私は留学先として、ドイツ、ハノーファーにある Sports clinic Germany の Lobenhoffer 教授を選び、clinical fellow として受け入れていただきました。Lobenhoffer 教授は、脛骨プラト骨折に対して安全なアプローチを二つ開発しているほか、変形性膝関節症に対する内側開大型高位脛骨骨切り術に使用する Tomofix プレートの開発ドクターでもあり、臨床研究や手術器具の開発、教育研修講演活動や整形外科医に対する手術方法の普及教育活動で非常にご多忙な先生です。2014 年 9 月にソウルで第 1 回日韓膝周辺骨切りシンポジウムがあった際に、直接お会いして、2014 年 7 月から 12 月まで受け入れてくださるということで現在に至っています。

Sports clinic Germany では年間約 3000 件の手術を行っており、膝関節だけでなく肩関節や股関節の手術も盛んに行われているため、ヨーロッパの最先端の手術技術に触れることができました。また様々な国から fellow がひっきりなしに勉強しにやってきますので、たくさんの国の若い先生とも交流することができました。なかでも、膝関節の手術は、多岐に及んでおり、日本では症例数の少ない、X 脚に伴う外側型変形性膝関節症や膝蓋大腿関節の変形性関節症も数多く見ることができました。膝周辺の骨切り術に関しては、手術プランニングソフトを用いて 1mm オーダーの正確な手術が行われており、大腿骨に変形があれば、大腿骨遠位で骨切りを行い、脛骨に変形があれば脛骨近位で骨切りを行い、両方に変形があれば、大腿骨遠位と脛骨近位で同時に骨切りを行う (double osteotomy) が一般的に行われており、非常に高難度の手術をいとも簡単に行われていることに驚きを覚えました。単顆 (たんか) 人工膝関節置換術も、多数行われており、適応から手術方法、コツ、落とし穴まで、詳細にご教授して頂きました。全人工膝関節置換術も最新のコンセプトに基づいた、kinematic alignment のインプラント設置方法や、最小侵襲手術など、さすがヨーロッパ No1 と頷くばかりでした。本派遣を通じて、これらの手術技術の習得ができ、目標を達成したと考えております。

(様式 5)

さらに、今回の留学期間中に、ドイツの Tuebingen 大学で、本場の Level 1 外傷センターに 1 週間滞在する機会を頂いたり、AO Joint Preservation Expert Group という膝周辺骨切り術の新しいアイデアや手術器械を開発していく中枢で、2 回の参加と 3 つのプレゼンテーションをする機会を頂いたり、Lobenhoffer 教授もいろいろと気を配ってくださり、より充実した留学期間となりました。

研究に関しては、歩行解析により膝関節機能をもっと評価できないかというお題を頂き、さっそく秋田大学整形外科島田洋一教授が発展させてきた動作解析ツールを膝に応用して、筋消費エネルギーに着目した歩行解析を開始しております。

○研究期間全般にわたる感想

この度、平成 24 年度秋田大学研究者海外派遣事業による渡航費用を援助して頂きまして誠に有難うございました。心より感謝申し上げます。帰国後は、ドイツで取得した知識、手術技術、人脈を利用して、膝関節外科のレベルをさらに引き上げ、後輩にも伝授し、秋田大学、秋田県の膝関節医療のさらなる発展に微力ではありますが、尽力していきたいと考えております。

この度は、誠に有難うございました。



Lobenhoffer 教授と



AO Joint Preservation Expert Group meeting
にて 2 演題を発表する。